

場当たりの生産にピリオドを打ち 改革を断行、現場を生まれ変わらせる

アイム電機工業

水中ポンプ、水中モータの分野で60年近い実績を持つアイム電機工業(福岡県遠賀郡、従業員110名)では、市場の変化に対応するため、多品種少量の製品を短納期で生産し、顧客に納入できる生産現場への脱皮が問われていた。しかし、現場は従来からのやり方に囚われ、停滞感が漂う。危機感を感じた同社の幹部は状況を打開するため、モノづくりの革新に取り組み始めた。

2008年から4年近くに渡って展開された活動によって職場は一変。今では多くの見学者が訪れる評判の工場に変わった。何が現場を変えたのか、活動のポイントを小野隆二郎社長と川野宏取締役管理部長に伺った。

—市場の変化が著しいとのことですが、どのような状況なのか。

小野 当社がかつて売上げの約半分を公共事業に関する案件が占めていましたが、最近では東南アジアを中心に外需が伸びてきており、国内需要の減少分を補うようにな



全員参加の改善活動で現場を一変させたアイム電機工業のみなさん

ってきました。ただし、海外との取引は円高の下で低価格を要求されており、収益的には厳しい状況ですが、生産量は増えていくものと考えています。生産の内容も定型的な注文が多かった従来とは異なり、受注生産に近く、きめ細かい対応が求められるようになっていきます。

—このような変化に対応することを念頭に置いたとき、改善活動開始前の生産現場の課題をどのようにみていたのですか。

小野 当社のモノづくりは毎年同様な問題や課題を抱え、マンネリ化や停滞感を感じていました。

数年前から他社の工場を見学する機会も増えてきて、品質・納期コスト面で『このままでは市場で戦えない』と危機感を抱くように



小野隆二郎代表取締役社長

“製造工場としてありえない姿”と酷評された過去